

# グラウンディングの選択性

坪井祥吾 (Shogo Tsuboi)

一橋大学大学院

アイスクリーム、国家、水分子、心など様々な種類のものがこの世界には含まれている。そして、それらに関して様々な事実が成り立っている。さらに、それら諸事実の大半はただ成り立っているのではなく、別の事実依存して成立している。例えば、〈今年のアイスクリームの売上は去年より多い〉という事実は、それ自体で単に成り立っているのではない。それは、〈この夏の気温は去年よりも高い〉といった別の事実依存して成立しているのである。あるいは、〈私は悲しい〉という事実も、〈私の脳がしかじかの状態にある〉といった別の事実依存して成立している。

依存関係は、経験科学において重要である。特に、因果的な依存は重要である。実際、科学的探求における典型的なタイプの問いは、「CはEの原因か？」というものだろう。「気温の上昇は、アイスクリームの売上が増加したことの原因か?」「睡眠障害は、抑うつ状態の原因か?」等の問いは、(とりわけ統計的因果探索の手法の整備が進んだことにより) 科学者が熱心に追求しているところのものである。

一方で、依存関係は哲学においても重要である。だが、典型的には、哲学において問題となる依存関係は因果的なものではない。哲学においては、因果関係によく似た、しかし別種の構成的 *constitutive* な依存関係が問われるのである。例えば心身問題の文脈では、〈私は悲しい〉という心的な事実と〈私の脳がしかじかの状態にある〉という物理的な事実とがどのように結びついているのかが問われる。そして、この問いに対しては、少なくともいくつかの見解に従えば、「それらはある構成的な関係によって結ばれているのだ」と答えられる。こうした事実間の構成的な依存関係がグラウンディング *grounding* である。やや戯画的に言えば、科学者が「CはEの原因か?」と問うように、哲学者は「GはFのグラウンドか?」と問うのである (Fine 2012: 40)。この意味で、因果関係とグラウンディング関係は類比的である。

現在の研究状況では、グラウンディング関係は絶対的な関係だと想定されている。つまり、事実Gが事実Fのグラウンドであるということは、GやF以外の要因を参照せずに(すなわち他の何ものにも相対化されずに) 成立すると言われるのである (cf. Thompson 2016: 396)。たしかに、前理論的な直観としては、グラウンディングのような構成関係は絶対的に定まっているのだと言いたくなる。

だが、本発表ではまさにこの想定を退ける。つまり、グラウンディング関係の成立が外的な要因に相対化される場合があることを示す。この相対性は、グラウンディングと因果が類比的であることからの自然な帰結である。議論は以下の通りである。まず、因果に関して選択性 *selectivity* が成立することは広く認められている (Schaffer 2016: sect. 2.3)。因果の選択性とは、与えられた出来事にとって、何がその原因となるかが文脈によって変化するという性質である。ここでグラウンディングは因果と類比的であることを思い起こす

と、グラウンディングについても同様にして選択性が成立すると予想される。そして実際、いくつかのケースを調べると、グラウンディングに関しても選択性が成り立つことが見てとれる。すなわち、与えられた事実にとって、何がそのグラウンドとなるかはいくつかのケースでは文脈に相対化されるということである。これは、グラウンディングの絶対性に反する観察である。

以上の議論は、グラウンディングの絶対性という広く普及した想定を退けるものである。よって、これはグラウンディングに関する研究に小さくないインパクトを持つ。とりわけ、グラウンディングの応用に際してこの結果は重要である。というのも、グラウンディングは様々な領域に応用可能な一般的な道具であるとしてアピールされることが多い一方で、気軽に応用するには形而上学的にあまりに「重量級」という難点があったからである。本発表によってグラウンディングの絶対性の仮定が落とされれば、より「軽量級」の道具としてのグラウンディングが得られるのである。

#### 参考文献

- Fine, Kit, (2012). “Guide to Ground”, in Correia, Fabrice and Benjamin Schnieder (eds.), 2012, *Metaphysical Grounding: Understanding the Structure of Reality*, Cambridge: Cambridge University Press, 37–80.
- Schaffer, Jonathan, (2016). “The Metaphysics of Causation”, In Zalta, E. N. and U. Nodelman (eds.), *The Stanford Encyclopedia of Philosophy*, Fall 2016 edition: Metaphysics Research Lab, Stanford University, URL = < <https://plato.stanford.edu/archives/fall2016/entries/causation-metaphysics/> >. (*The Stanford Encyclopedia of Philosophy* の該当エントリの古いバージョン.)
- Thompson, Naomi, (2016). “Grounding and Metaphysical Explanation”. *Proceedings of the Aristotelian Society*, 116 (3):395–402.